

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	13-077	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Association of alcohol consumption with incident hypertension among middle-aged and older Japanese population: the Ibarakai Prefectural Health Study (IPHS). 中高年日本人集団における飲酒と高血圧発症との関連の検討：茨城県健康研究		
執筆者		
Okubo Y, Sairenchi T, Irie F, Yamagishi K, Iso H, Watanabe H, Muto T, Tanaka K, Ota H.		
掲載誌		
Hypertension. 2014 Jan;63(1):41-7. doi: 10.1161/HYPERTENSIONAHA.113.01585.		
キーワード		PMID
加齢、飲酒、コホート研究、高血圧、比例ハザードモデル		24126168
要 旨		
目的： 日本人一般住民において飲酒と高血圧発症との関連について加齢の影響を検討すること。		
方法： 1993年から2004年までに健康診断を受診した、高血圧の既往のない、40-79歳の日本人一般男性37,310名、女性78,426名に対して、血圧測定を含む毎年の追跡調査を2010年まで行った。高血圧は収縮期血圧140mmHg以上、拡張期血圧90mmHg以上、または降圧剤開始と定義した。Cox比例ハザードモデルを用いて、交絡因子を調整し、飲酒による高血圧発症に対するハザード比を推定した。		
結果： 追跡期間中（平均3.9年）、45,428名（全体の39.3%）（男性16,155名、女性29,273名）に高血圧を認めた。男女ともいずれの年齢層において、飲酒量と高血圧発症について有意な関連を認めた（傾向P値、40-59歳および60-79歳男性：<0.001、40-59歳女性：0.004、60-79歳女性：0.026）。男女とも高血圧発症に関して年齢と飲酒との間に有意な交互作用を認めなかった（P値 >0.05）。		
結論： 本研究の結果は、飲酒は中高年いずれの年齢層においても同様に高血圧発症のリスクとなることを支持する所見である。		